

はせさんず

2012 冬号 NO.60

ニュース

2012年11月20日(火)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 坂口 郁子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元気かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

第16回はせさんず講演会
独りでも、認知症になっても、安心して家で暮らす
 地域包括ケアのまちづくり

10月20日(土) LUSラズ大森4階 大田区入新井集会室



恒例の「はせさんず講演会」が、公益財団法人さわやか福祉財団理事長の堀田力さんが

基調講演



堀田力さん

福祉の仕組みは、この10数年のあいだにどんどん進歩しています。介護保険を含めた仕組みがどのように動いて、私たちの活動がそのなかでどういう意味をもってきたのか。

(1) 介護保険制度以前
 90年代はせさんずが誕生した頃、まだ介護保険はなく、私たちボランティアは、困っている高齢者を少しでも支えようと活動していましたが、

迎えて開催されました。

第一部「地域包括ケアのまちづくり」と題した堀田さんの基調講演に続いて大田区の松原忠義区長の挨拶があり、第二部は「堀田力さんといっしょに語る」と題したシンポジウム。多摩川芙蓉ハイソシニアクラブ代表の竹本是さん、鈴木内科医院医師の鈴木央さんが現在の活動について報告し、高齢化が進むなかで自分の家で安心して死ぬまで暮らし続けることのできる地域づくりについて話し合いました。

コーディネーターは、はせさんずの坂口郁子理事長。まず、坂口理事長が市民後

とても家族やボランティアだけではやれない。どんな人でも介護が必要になったら支援が受けられる、介護保険制度が2000年に実現しました。

(2) 介護保険スタート
 当初、介護の目的は寝たきりにならないための「自立」支援。ボランティアは身体的支援から「心のふれあい」に専念できるようになりました。

(3) 5年目の見直し
 身体の自立も大事だが、誇りをもって生きる、精神的な満足を得ることがもっと大事と、「尊厳」を最高の目的にして、その人らしく暮らせるようなサービスに変えた、医療、介護が連携するという考

えもでき、地域包括支援センターを中心になるべく地域で暮らせるようにしました。

(4) 10年目の見直し
 今年4月に24時間巡回型の訪問看護・介護サービス開始。在宅サービスを滞在型から巡回型にし、施設のなかのサービスを地域に広げて、地域の自分の家で最期まで暮らせるという仕組みを実現させました。これから少しずつ体制が広がっていくと思います。

(5) 包括ケア実現に向けて
 今後は、ボランティアも包括支援の輪の中に入って、みんな力で合わせて支える、そういう仕組みに近づくようにみんなで取り組みましょう。



長見事業、NPO活動団
 理事 P O 交流会、
 坂口 認定NPO

法人取得に向けて、被災地支援、そして移送サービスなど、はせさんずの最近のたすけあい活動について紹介。

次に、竹本さんが「コミュニティでできること」と題して、シニアクラブの立ち上げから小学生の登校見守りをはじめに、会報の発行、健康教育、俳句、囲碁マージャンや散策などの同好会、介護支援などへ展開している活動をパワフルで紹介。一年生の見守りを始めてから6年。現在は



1年生から6年生まで全部と顔見知り、保護



長 仕事を辞めて地域に入ってから

加者へも大きな励ましとなりました。

堀田理事長は、地域の高齢化問題を考え、地域の絆を作って活動している竹本さん、介護の必要な人たちへ助け合いの支援をしているはせさんずの活動、亡くなる時を納得感や満足感を持ったひとりの到達点とできる最期のすこし方を話す鈴木さんの話は、退職した後からずっと老いて亡くなるまでの生き方がみえるようなフォーラムとなり、本場にすばらしかったと堀田さんがまとめました。

参加者140名。会場は準備の椅子まで出る満員盛況となり、参加者はみな熱心に話を聞いて、「感銘を受けた」「大変参考になった」などの感想が相次ぎました。

一人ひとりの尊厳を守る地域包括ケアのまちづくりには医療介護連携のみならず、地域住民全体のふれあい・たすけあいが必要だと痛感した講演会でした。



続いて、鈴木さんが鈴木内科医院の医師として

実際に在宅患者の看取りをしている経験から、「最期の時を家で過ごすということ」をテーマに、人生で最後のときをどこですごしたいか、自宅か病院かを問う、病気によって違いがあることや在宅緩和ケアの説明をしながら、自宅で最期のときを過ごす場合はどのようにするのが丁寧な話しました。死を前に家族や地域の医療介護チームから暖かいケアを受けながら自分なりの生活を送ることができれば「少なくとも不幸ではない」という鈴木さんの言葉は、参

ご挨拶



松原忠義大田区長

私は、はせさんずが池上に開所したと先ずが池上先進的な事例として、その活動を注視しています。はせさんずのような活動はたいへん大事なことです。大田区もまだまだ高齢化が進んでいく状況ですから、特に医療、福祉、介護の連携を進めていきたい。

地域社会が高齢化を迎えて、どういったふうに生きがいをもっていくかという点では、大田区は地域力を中心にしていきます。人と人の結びつき、地域との結びつきの大切さは、今私たちがいちばん必要とし、はせさんずが実践していることでもあると思います。大田区としても、できる限りそういう視点を置きながら、これからもやっつけていきたいと思

公益財団法人さわやか福祉財団の主催で、はせさんず坂口、佐藤が参加。前日には仮設住宅に講演会のお知らせをアナウンスした。広い仮設住宅は洗濯物や鉢植えの花に生活感がある暮らしが、あつたが、こんな仮暮らしを2年越しにしなければならぬ国の無能ぶりに怒りと悲しみがこみあげてきた。当日は雨、バスの迎えがあるとはいえ、参加者が心配された。幸い各仮設から100名以上の参加があった。さわやか福祉財団堀田力理事の講演のあと、厚生労働省社会援護局福祉課岡河課長補佐による国の考え方の講演。続いてパネリスト5人からそれぞれ立場の発言があった。雄勝波板地区の伊藤

みんなで考えよう！ 最後まで地域で暮らせるまち

石巻フォーラム 10月28日(日) 会場:石巻専修大学

武一さんが、限界集落といわれているが元気な高齢者が助けを必要とする。高齢者を助けて、小人数で中心に居場所がある形で、まず地域で考えていくのが望ましいと、「地域包括のまちづくり」の計画を説明。石巻市立病院開設の仮設診療所の長純一さんの仮設へのきめ細かい診療や、人が生きるための基本的な話は感動した。石巻市側は質問の対応に歯切れが悪く、会場から厳しい意見がいくつも出た。今日のフォーラムをもっと建設的に開ける見込みがある。予感があった。



忘年会
 日時: 12月7日(金) 18時30分
 場所: 池上会館(紅梅・白梅の間)
 参加費: 4000円
 参加申込: 12月3日迄に事務局へお電話ください

2013年版 カレンダー発売中
 A4サイズ一部700円
 葉書サイズ一部600円
 お申込は、事務局まで

《事務局だより》
 9月1日付
 でヘルパーステーションに常勤ヘルパーとして内海玄宗さんが、デイホームに看護師として橋本眞砂子さんが入りました。よろしくお願ひします。

大田区職員研修
 入職2年目の大田区職員研修を9月から10月にかけて今年も引き受けました。はせさんずは7日間の計12名を担当し、デイホームの一日を体験してもらいました。この研修は協働体験編として大田NPO活動団体交流会の加入団体の中から13団体、外部NPO1団体が加わり、協力して引き受けたものです。

11月3日(土) 4日(日)の2日間、紅葉のはじまった平和の森公園でフリマが行われました。献品をしてくださった人をはじめ、品物の仕分け・値付け作業や当日の売り子をしたボランティア。また自動車での荷物運び、さらにフリマ終了後のゴミの回収など、協力いただいたすべての関係者に改めて感謝いたします。

ホームページリニューアル
<http://hasesanz.com>

はせさんずのホームページが9月から新しくなりアドレスも変わりました。新たにドットcomのURLを取得し運営を開始。これまで写真掲載の制限がありましたが、写真を多く掲載できるようにしました。特に情報発信の機能を強化したトップページでは、最新の情報を「TOPICS」に、講演会などのニュースは「NEWS」として、また「はせさんずニュース」や「百日草」のバックナンバーも見られるようにしました。写真の一部は、まだ古いものを使用していますが、順次更新。ぜひご覧ください。

OTAふれあいフェスタ
フリーマーケット
売上: 439,000円

はせさんず各部門スタッフより 聞いて！ 聴いて！

会員制たすけあい活動
 ギャツ、ツルルツ、クワツ、池上本門寺の坂を通ると、木々の間からいろいろな鳴き声が聞かれます。カラスやヒヨドリ、たまにインコも存在感たっぷり、ヒューーと飛び回っています。この辺りは大田区で唯一緑濃い場所、はせさんずでも移動支援の散歩コースに選んでいます。高齢者や身体に障害のある人々が地域でたすけあいながら住み続けるためにも、良い自然環境を大事に守り育てたいものです。(青木賢一)

ヘルパーステーション
 はせさんずに入り、初めて移動支援というものを知り、その奥深さを日々学んでいます。一緒に散歩をしたり、ときには電車やバスに乗り公園や博物館・動物園へ行ったりと、支援内容はさまざまです。支援中に利用者が素敵な笑顔を見せてくれると、楽しんでいことが伝わり、こちらもしょに笑顔になります。今後は利用者の方々と関係を深め、さらに良い支援ができるよう頑張っていきたいと思ひます。(鈴木隆幸)

ケアサポート
 介護保険改正のテーマの中に「ネットワークの強化」があげられましたが、ケアサポートも居宅介護支援業務にプラスして、地域包括支援センターと複数の事業所が協働で「高齢者見守りネットワーク」活動を開始。先日、出張所で介護保険勉強会を開催し寸劇を交えてPRに取り組みました。介護予備軍のうちからのかわりが、介護予防を充実させていくことになれば、元気に地域で暮らすのが合言葉です！(石井幸子)

デイホーム
 認知症の利用者の数が増えつつありますが、ここデイホームでも徐々に増えています。一人ひとりの対応は確かに違いがあり、介助者が困惑してしまうケースも間々あります。しかしそんなとき、利用者同士の話を聞いてみると、理解力の差こそあれ相手に真摯に向き合う姿が見られ、多くの疑問を解決する糸口になることもあり小さな「気づき」が大きな信頼を生むこともあるのだと改めて考えさせられる今日この頃です。(風間孝之)

元気かい
 10月より菊田俊介さんが元気かい事務局に入りました。菊田さんは若い頃からの山男でデジカメも得意とされているそうです。現在は囲碁や卓球、歴史の勉強などの広い趣味をお持ちです。若い頃英国に5年以上滞在した経験があるとか、英語もペラペラでしょうと勝手に期待しています。事務局は世話人の方々の援助のもと、井元が連絡業務や印刷物発送など頑張ってきましたが、心強い協力者ができました。(井元一彦)